



高き理想

新聞を読もう

皆さんは新聞を読んでいますか？新聞を取っていないご家庭もあると思いますが、各教室には山形新聞が毎日届いています。これは、地域創生をテーマに「1学級1新聞」で若者が新聞に親しめる環境づくりを目指し、山形新聞が協賛企業を募り行っている事業です。2023年度は公立高校46校、私立高校14校の計772学級に届けるとのことです（2023年4月13日山形新聞より）。

授業でも「新聞を読もう」と言われると思います。この「教育に新聞を」という考えは、NIE（Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」）といい、学校などで新聞を教材として活用する活動です。1930年代にアメリカで始まり、日本では85年、静岡で開かれた新聞大会で提唱されたそうです。近年では、ほとんどの人がスマートフォンを持っている状況なので、気軽さで言えば「ネットニュース」のほうが利用しやすいでしょう。もちろん新聞と同じ内容も載っていますし、記事によっては動画もありますので、内容も充実しています。即時性もあるので、



山形新聞を読む3年生

気になっていたスポーツの結果もすぐに知ることができますよね。

では、なぜあえて「新聞を読もう」なのでしょう。ひとつ目は様々な分野の記事が載っているためです。ネットは見たい記事だけ見る傾向にありますが、新聞は、興味がない記事も視野に入ってきます。目にしたことで、新たに興味がわくこともあります。忙しい西高生にとっては、見出しだけサッと見るという読み方も良いでしょう。ふたつ目は、一方的な意見ではなく、賛成、反対両方の考えが載っている点です。一紙だけではなく複数読めると、なお良いでしょう。（英字新聞や全国紙などは図書館でチェックして下さいね。）例えば、昨年の4月から18歳成人ということで、3年生には選挙なども大きな関心事だと思います。誰のどの政策に共感でき、投票するのか等、自分の考えを深めることにも役立ちます。多角的な視点で見る・考えるということは、入試の小論文や面接にも役立ちます。推薦を考えている人は特に、今のうちから新聞を読んでおきましょう。大学の先生方は入試問題を入試の直前に作るのでしょうか。当然もっと前に作っているはずですよね。入試のためだけに急に読むのではなく、未来の自分のために日ごろからほんの少しの時間でも新聞を読みたいものです。忙しい人も、関心のある記事を「後でじっくり読もう」とスクラップブックにするだけでも効果的です。

教室にある新聞を一度でいいので手に取ってみましょう。新しい発見が待っていますよ！



(上)
図書館にある英字新聞など。入口から左手にあります。

(左)
教室にある新聞。1年～3年の全教室にあります。

内容についての質問やご意見は
進路指導課 矢口 までお知らせください。